

「福祉サービス第三者評価を準用した調査」結果報告書(21年度)
 (東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助)

年 月 日

社会福祉法人 調布を耕す会
 しごと場大好き 施設長 亀田 良一郎 殿

郵便番号 162-0825

所在地 東京都新宿区神楽坂2-4 結城ビル4F

評価機関名 特定非営利活動法人 NPO人材開発機構

認証評価機関番号 機構 02 - 005

電話番号 03-5206-7831

代表者氏名 理事長 水谷 正夫 印

以下のとおり調査を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	担当分野	修了者番号
	① 経営	H0402001
	② 福祉	H0802068
	③ 経営	H0901003
	④ 福祉	H0202080
	⑤	
⑥		
福祉サービス種別	就労継続支援B型・生活介護	
調査対象事業所名称	しごと場大好き	
事業所連絡先	郵便番号	182-0024
	所在地	東京都調布市布田3-20-1
	電話番号	042-486-1022
事業所代表者氏名	施設長 亀田 良一郎	
契約日	2009年 11月 25日	
利用者調査票配布日(実施日)	2009年 12月 16日	
利用者調査結果報告日	2010年 1月 22日	
自己評価の調査票配布日	2009年 11月 25日	
自己評価結果報告日	2010年 1月 22日	
訪問調査日	2010年 1月 27日	
調査結果合議日	2010年 2月 17日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	東京都のほぼ中央に位置し多摩地区の南東部の地域で、平成5年から地域の知的障害者の通所作業所「しごと場大好き」を開所し、平成8年には私鉄駅傍に喫茶「カフェ大好き」をオープンした。平成20年4月から新体系の多機能型(生活介護・就労継続支援B型)に移行して、これまで培ってきた2つの機能をもった施設を活用して29名の利用者が職員の支援のもとで活動している。利用者の活動の場が距離的に離れているため、4人の評価者が分れて、「聞き取り方式」で利用者調査を行った。	

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

年 月 日

事業者代表者氏名 印

調査対象

利用者29名〔男性16名(55%)、女性13名(45%)〕、平均年齢29.1歳(男性29.4歳、女性26.2歳)の利用者全員を対象とした。

調査方法

利用者は、「しごと場大好き」と、離れた場所にある駅傍の喫茶「カフェ大好き」の2つの場所で活動しており、利用者によっては時間帯により双方を行き来して活動しているため、利用者の活動に合わせて2つの場所で「聞き取り」を行った。

利用者総数

29

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
	25	25
	25	25
0.0	86.2	86.2

利用者調査全体のコメント

基本理念、「障害のある人たちが住み慣れた地域社会で自己実現できる環境をつくり、かかわる全ての人々が誇りの持てる多様な福祉事業を行う」として、法人は、「しごと場大好き」と「カフェ大好き」の二つの事業所を運営している。この事業所を平成20年4月に障害者自立支援法に基づく、多機能型(生活介護・就労継続支援B型)サービスに移行して、現在29名の利用者が、陶芸、組みひも、ポスティング等の活動の場としての「しごと場大好き」と、陶芸や組みひも等の作品を展示した喫茶店「カフェ大好き」で日中活動を行っている。そのため評価者は2つの場所に分かれ、それぞれの活動の時間帯に合わせて1対1で、利用者の状態によっては職員の助言を得ながら「聞き取り方式」で行った。聞き取りからは、問7「職員は丁寧か・・・」は全員「はい」、問1「日常活動はやりがいがあるか・・・」等7項目の間に約9割の方が「はい」と回答しており、日中活動にやりがいを持ち、職員との信頼関係の深さがうかがえる。しかし、問13「第三者委員等に相談・・・」の設問は、半数の方が関心を寄せなかった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 仕事など日常の活動はやりがいがあるか	24	1	0	0
コメントから「毎日来て牛乳パック回収」、「組みひも上手にできる」、「接客の仕事」、「お客さんに注文の物を持っていく」等の声が聞かれるように、「しごと場大好き」では、陶芸、組みひも、牛乳パック回収、行政からの依頼によるメール便、ゴミカレンダーや防災マップ等のポスティング、児童公園等の清掃活動等を行っている。また、猫の看板が目印の「カフェ大好き」では、コーヒー・ケーキ、自家製のアイスクリーム、カレーライス等を、薄緑色のバンダナ、淡いブルーのシャツにベージュのチノパンツにきりりと締めた黒の前掛け姿で働いている。				
2. 工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されているか	22	1	0	2
「袋に入ったお金貰います」、「ボーナスも貰える」、「毎月貰っています、印鑑押している」、「メールの仕事をした時は給料が高い」等の声が聞かれたが、支払の仕組みまで分る方は殆んどおられなかった、生活介護サービス事業は、主に「しごと場大好き」の施設で、就労支援継続B型サービス事業は、曜日や時間帯で「しごと場大好き」の活動と駅傍の商店街にある喫茶「カフェ大好き」の店舗の双方で働いている。利用者はいずれの日中活動においても工賃規定に基づき全員に給料及びボーナスが支払われている。				

3. 必要なとき職員からの相談・支援は十分か	22	2	0	1
「職員には何でも言える」、「お願いしたことはやってもらっている」、「ちゃんとサポートしてくれる」、「相談できる、困ったことはない」などの声が聞かれ、特に、職員の名をあげながら満足げに話す方が多くみられた。相談窓口は、「しごと場大好き」は施設長、「カフェ大好き」は所長となっているが、日常的に支援に関わっている職員が利用者の状態に応じて適宜対応しており、毎朝のミーティングで情報の共有化を図り支援している。				
4. 施設の設備は安心して使えるか	22	0	0	3
「ここで危ない思いをしたことはない」、「カウターの中には入らないので危ない所はない」、「カレーの仕込み、安全です」、「車椅子のトイレ大丈夫です」等、「危なくない」との声が多く聞かれた。2階建ての「しごと場大好き」の室内は木製のフローリングに傾斜の緩やかな広い階段、車椅子や歩行が困難な利用者はエレベータ、「カフェ大好き」の店舗も木製のローリングに奥には木製のベンチ型の固定椅子に広いテーブルが配置されている。利用者調査の日にもベビーカーのお母さんたちのお客さんがあったとの話が聞かれた。				
5. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	14	3	0	8
「人前で嫌なことを言われたことはない」、「秘密はないです」、「秘密にしておきたいことでも、家の人が皆に知ってもらった方がよいと言って話をする」等の話が聞かれたが、「プライバシー」と設問が抽象的なため、関心を示さない方が多かった。				
6. 利用者の気持ちは尊重されているか	24	1	0	0
「大事にしてもらっています」、「職員がいつも教えてくれる」、「皆と仲良しです」、「皆優しいです」、「気遣ってくれる」、「職員は皆優しいです」などの声が聞かれるように、「聞き取り」の際も、日中活動や昼食時の食堂での楽しい会話の中でも、全員の方が大切にされていると肌で感じている雰囲気が漂っていた。				
7. 職員の対応は丁寧か	25	0	0	0
全員が「はい」を選択しており、「職員は皆優しい」、「丁寧です」との声が多く聞かれた。利用者の気持ちは、問6「尊重されているか」と同様の雰囲気に溢れていた。				
8. 個別の目標や計画を作成する際に、利用者の状況や要望をきかれているか	16	2	0	7
「聞いてくれます、お客さんが沢山来るといい」、「新しいケーキを作りたい」、「カフェにお客さんが増えればいい」、「休まないで通うこと」、「朝の会の司会をしている」等の話が聞かれたが、支援計画作成時のことというよりは、活動していることの実感であった。				
9. 【個別の目標や計画について説明を受けた方に】 個別の目標や計画についての説明はわかりやすかったか	14	1	1	9
支援計画については、必ず本人も一緒に家族と面談して了解のうえ、目標・具体的な支援計画を作成している。				

10. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	2	0	0	2
該当者少数のためコメント等省略				
11. 不満や要望を事業所や職員に言いやすいか	22	2	0	1
「何でも言えます」、「言ったことない、何でも職員がやってくれる」、「何時も職員の誰かがバックアップしてくれる」、「友達の事、しごとの事相談している」など、コメントは少ないものの、何でも気兼ねなく相対しており、家庭的な活動環境となっている。保護者会を「ファミリー」と呼んで、毎月1回開催して意見交換をしながら、家族と一体となった運営をしている。				
12. 利用者の不満や要望はきちんと対応されているか	22	1	0	2
「やってくれる」、「要望はない」、「信頼している」、「満足している」など、コメントは少ないものの、問11と同じく家庭的環境となっている。「しごと場大好き」では、利用者の意見を積極的に取り上げてサービスに反映させるために、定期的にメンバー会議を行っている。「カフェ大好き」でもメンバーの空き時間に一定のテーマで話し合いを持っている。また、利用者が双方を積極的に行き来して活動できるようにしている。				
13. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	5	1	6	13
「外部の人」、「苦情」との設問は、しごと場大好き、カフェ大好きの利用者にとって馴染みも必要性もないためか、半数の方が関心を寄せなかったが、「しごと場大好き」、「カフェ大好き」では施設長・所長が相談窓口となり、日常的に職員が相談にのったり、メンバー会議を持ち、話し合いをしており、特に第三者など外部の人に相談する必要がないため無関心のように思われる。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	◎あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	

評価項目3

重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○非該当
◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ◎なし

カテゴリー1の講評

障害のある人たちが「地域の中で生き生きと豊かにゆかいにゆうゆうと」暮らすを理念に

しごと場大好きは、1992年任意団体調布耕す会を設立し、それが母体となり1993年無認可作業所を開設した。2003年小規模通所授産施設として、調布を耕す会を社会福祉法人化した。2008年には現在の地に新施設を竣工し、同年自立支援法施設(生活介護・就労継続支援B型)に移行した。開所以来17年間一貫して、障害のある人たちが「地域の中で生き生きと豊かにゆかいにゆうゆうと」暮らすことのできる環境こそ、男女を問わずお年寄りから子どもまで、誰もが豊かな人生を享受しうる地域の在り方だとの理念で支援してきた。

施設長は、職員を巻き込んで中長期計画を策定する中で諸制度・規程の改定に取り組む

継続的、発展的に理念の実現に向けた取り組みを行うためには、その経営基盤の確立が重要との認識はあったが、1法人1施設(事業所としては「しごと場大好き」と「カフェ大好き」の2箇所)と小規模で、事務専任者を配置せず、施設長自らが利用者(メンバー)支援の最前線に立ってきたこともあり、人事制度、給与制度、諸規定などの整備が遅れてきた。施設長は、今回の第三者評価を機に、職員を巻き込んで、中長期計画を策定する中で、諸制度・規程の策定・改革に率先垂範して取り組んでいる。

重要事項の決定など保護者も経営責任の一端を担って運営されている

法人の運営に関わる重要事項の決定は、理事長、施設長、所長で構成される法人事務局で素案を作り、職員会議で確認した後、職員も参加し毎月実施される保護者会(ファミリー)で家族にも意見を求めた上で、理事会で決定される。理事会や評議員会のメンバーに多数の保護者が加わり、保護者も経営責任を担って運営している。利用者母の会(こぶしの会)、父の会(おやじの会)、調布を耕す会を支える会が支援している。ただ、創業時代からの利用者(保護者)と最近の利用者では、法人への思いに温度差があり、新しい利用者への理念浸透に努力している。

カテゴリ-2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
サブカテゴリ-2		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○非該当
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(B)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○非該当
●あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

カテゴリー2の講評

その人の「ありのままを受け入れ」て支援することの大切さを、機会があるごとに話している

施設は、①利用者の基本的な人権を尊重し、誠実、安心、安全な対応を心がけます、②利用者の個性、意思を尊重し、あるがままを受け入れ、③利用者の自己実現を目指し、常に内なる力を引き出す視点を持って接しますを職員の行動規範としている。支援者は無意識に利用者を障害者としての視点で接し、その人の「ありのままを受け入れる」ことが困難であることを指摘し、施設長はこの行動規範の趣旨を機会があるごとに話している。また、「障碍」のある人との「文字」へのこだわりもその一つの表れである。

バザーや各種行事は、市民や家族が一体となって実施するなど開かれた施設運営が行われている

「地域の中で生き生きと、豊かにゆうかいにゆうゆうと」を基本理念としてきた法人は、徹底して地域に開かれた施設として運営してきた。市民との日常的な交流を深めるための「餅つき大会」、「花火大会」、年数回実施されるバザー、「それはおしゃべりなコンサート」など各種行事には、毎回数百名の参加を得ている。バザーでは、市民が自発的に商品を持参し提供していただくなど、市民や家族が一体となって運営されている。バザーの広報にあたっては、ほぼ全市内へのチラシのポスティングを家族やボランティアの協力で行っている。

地域機関との連携をはかり、地域の共通課題に取り組んでいる

行事には多数のボランティアの参加を得ているが、これまで自然と受け入れてきたことで、要綱の整備はしていない。施設長は、25団体、34作業所が加盟する「調布市福祉作業所等が入る連絡会」の代表として事務局を担い、共同事業で中心的な役割を果たしている。また、市の障害福祉課との連携や市長との懇談など通じて、地域の共通課題に取り組んでいる。ただ、地域の人へ専門的な相談に応じられるような役割は果たせていないとの自覚がある。

カテゴリ-3

3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

サブカテゴリ-1

利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

評価項目1

利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリー3の講評

連絡帳や送迎の際の会話など機会を通じて、保護者からの苦情や要望を汲み上げている

利用者の苦情には、法人で苦情対応規程を設け、苦情受付担当者の責務などを明記している。保護者や利用者からの苦情や要望は、施設の相談窓口だけでなく、すべての職員が日時に関係なく随時伺い、速やかに対応すると共に、それらの情報は日誌に記録されている。保護者には、連絡帳や送迎の際の会話などあらゆる機会を通じて、施設の方から苦情や要望を汲み上げるようにしている。事業所以外の人に苦情や相談ができることは保護者会で伝えているが、第三者委員は実質的に稼働していない。

社会体験活動の訪問先や食事メニューの希望など利用者(メンバー)会議を通じて意向調査を実施

「一人ひとりのニーズに応える、選択可能な多岐にわたるサービス提供を目指す」ことを支援の基本方針に掲げている施設では、ことあるごとに利用者の意向を確認している。社会体験活動で訪問したい場所や食事のメニューの希望などは、メンバー(利用者)会議を通じて意向調査を行っている。言葉で表現できない利用者の意向は、日ごろの本人の興味・関心や表情などによって、把握するよう努力している。このように利用者とのコミュニケーションには特に力を入れており、アットホームな雰囲気を作り上げている。

小規模作業所の統廃合、利用者ニーズの多様化など新たな課題の解消に向けた動向分析を実施

障害者福祉制度が大きく揺れ動く中で、新法移行に向けた小規模作業所の統廃合が議論されており、当市の福祉事業は大きな変動が予測されている。そのような中で、施設長が代表者となっている調布市福祉作業所等連絡会の役割は重要性を増している。今後、利用者数の増加や利用者ニーズの多様性に伴い保護者との意思疎通の困難さが増すなど新たな課題の解消に向けた取り組みが重要になると分析している。

カテゴリ4		
4 計画の策定と着実な実行		
サブカテゴリ1		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目3
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしているなどの取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

サブカテゴリー2

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評価項目1
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

カテゴリー4の講評

平成22年度からの3か年中期計画の策定は、関係者の意見も収集しながら動き出した

これまでは単年度のみの中長期計画の策定しか行ってこなかったが、関係者の意見を収集しながら22年度からの3か年の中期事業計画の策定に取り組み出した。法人本部、しごと場大好き、カフェ大好きのそれぞれの部門別に、サービスの質の向上、地域社会への貢献、財務基盤の安定、人材育成、人事制度や組織強化の項目ごとに現状の課題の整備を行った。22年度のしごと場大好きの「サービスの質の向上」における重点課題は、ケース記録記入の徹底、ヒヤリハットメモ・気付きメモの開始、第三者委員の活動開始、事故対応マニュアルの作成を掲げている。

今年度の課題「利用者の増加に合わせ職員の増強」など計画の実現を着実に進めている

21年度の事業計画は、現場職員や保護者にも意見を聞きながら、課題を整理して策定した。21年度の方針は「自立支援法の報酬体系の変更に伴い定数の変更を行う。利用希望者の増加に合わせ職員定数を増やし受け入れ態勢を整える。生産活動をより活性化して工賃水準のアップを目指す」を掲げている。また、利用者意向を充足するための環境整備や作業種目の充実も今後の課題と考えている。職員の増強など課題実現に着手するなど計画の推進に当たっては、毎月の職員会議で進捗状況を確認しながら進めている。

ヒヤリハット情報として再発防止や予防対策への活用が今後の課題

利用者の安全面については、年2回の防災訓練から、日々の服薬管理、事故に遭遇した時の連絡体制など基本的な事項は整備されているが、これまであまり大きな事故などがなかったこともあり、必ずしも職員の危機意識は高くないとの認識がある。利用者の些細な事故やトラブルは、職員や利用者に報告され注意を促し、日誌に記録されている。しかし、ヒヤリハット情報として再発防止や予防対策には十分に活用されておらず、今後の課題となっている。

カテゴリー5

5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

事業所にとって必要な人材構成にしている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点(B)

評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○非該当
○あり ●なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリー2

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(B)

評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
○あり ●なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

カテゴリー5の講評

新人採用は、候補者の現場実習を通して、職員や利用者の意見も集約し決定している

人材確保は現場責任者が選んだ人材を実習等を通して現場職員、利用者の意見を集約して最終的に採用しているので、理念を理解し実践できる人材である。直接支援にあたる職員は、利用者数の増加に対して、職員1人当たりの利用者数3.02とたいへん手厚い陣容とした。しかし、事業所が「しごと場大好き」と「カフェ大好き」の2箇所に分散されていることやカフェが土日も営業しているなどの要素もあり、不足感を持つ職員も多い。また、事務職員が不在で、施設長を中心に職員が現場の支援を行いながら事務作業をしており、負担感が強い。

資格取得へのバックアップも含めた研修体制の確立が急がれる

今年度は、都や社会福祉協議会、民間財団が実施する外部研修に、施設長や職員が参加する機会を増やした。ただ、新人職員の導入研修やOJT研修が不十分であったり、職員一人ひとりの能力向上に関する希望の把握やそれに応じた個人別育成計画は策定されていない。職員の研修希望にはローテーションを調整するなど配慮はしているが、研修成果の報告・共有化には課題がある。資格取得へのバックアップも含めた研修体制の確立が急がれる。

かかわる全ての人々が誇りを持って、健康で生きがいのある就業環境整備を

現在、年齢給をベースとした給与体系となっているが、処遇改善も含めた評価制度など給与規程改善への取り組みが課題となっている。法人は、「かかわる全ての人々が誇りを持てる運営を目指す」ことを経営方針として掲げており、職員が健康で生きがいをもって働けるような環境整備(福利厚生の充実や事務処理効率化などによる勤務時間の削減など)やストレスマネジメントへの取り組みも大切であると考えており、中期計画でも重点課題としている。

カテゴリー7		
7	情報の保護・共有	
サブカテゴリー1		
情報の保護・共有に取り組んでいる		
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		評点(B)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		評点(B)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

カテゴリー7の講評

法人事務と施設事務が混在し、専任事務職が配置されていないこともあり、情報管理に課題が多い

法人事務と施設事務が混在しており、専任事務職が配置されていないこともあり、各種規程の整備やデータ管理には課題が多い。また、会計責任者と出納担当が兼務しているためチェック体制を踏まえた情報管理に課題がある。また、収集された情報はファイリングされているが、必要に応じて誰もが活用できるような整備は不十分との認識がある。

個人情報保護規程の策定が急がれる

利用契約書には秘密保持の規程として、「…知りえた利用者やその家族等の秘密について、正当な理由がある場合を除き第三者に開示することはありません」と明示し、情報提供同意書を得ているが、個人情報保護規程は策定されておらず、課題となっている。実習生やボランティアに対しては、機会あるごとに利用者の秘密保持への配慮を口頭で伝えているが、特に誓約書は求めている。施設では、これまで利用者情報の共有化に力点が置かれて保護への取り組みが不十分であったと認識している。

カテゴリ-8	
8 カテゴリ1~7に関する活動成果	
サブカテゴリ-1	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	○ A+ ● A ○ B ○ C
改善の成果	
<p>念願の中期計画の策定が開始された</p> <p>* 22年度からの3か年中期計画の策定、関係者の意見も収集しながら、動き出した。 * 地域へ向けた、行事や作業活動、広報を通して地域の方々への施設に対する認知が進んだ。その結果、行事への参加者、ボランティアや実習の希望、バザー品の提供など、施設と関わりを持って下さる方々が1年目に比べて増えている。</p>	
サブカテゴリ-2	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	○ A+ ● A ○ B ○ C
改善の成果	
<p>利用者、職員が増え、20%にあたる人たちが新たに施設関係者となった</p> <p>* 利用者、職員が増え20%にあたる人たちが新たに施設関係者となった。 * 研修回数は少ないものの、今年度から計画的な外部研修の受講が行われるようになった。</p>	
サブカテゴリ-3	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	○ A+ ● A ○ B ○ C
改善の成果	
<p>新規事業のアイスクリーム販売において市内居酒屋に卸販売することとなり好評を博した</p> <p>* 1法人1事業所を、パンフレット及び、法人設立の1992年(平成4年)以来、休むことなく隔月に発行の会報(耕す会)と、毎年1回の年次レポート(事業計画・事業報告)及びホームページで広報している。 * 利用者の活動は「しごと場大好き」と「カフェ大好き」の両方に関わるため、両施設の活動予定を1か月毎にカレンダー形式にして、前月に全員に配布している。 * 第三者委員の存在については、昨年は、未設置のため「はい」の回答が無かったが、今年は半数の人が関心を寄せ、進展してきている。 * 新規事業のアイスクリーム販売において市内居酒屋に卸販売することとなり好評を博している。</p>	

サブカテゴリ-4

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

A+ A B C

改善の成果

初めて、事業所として単独で黒字化の財政になった

*昨年度は初めて、法人本部からの繰入無く黒字決算となった。今年度は、施設建設の際の借入金の返済開始年度だったため財政的に心配があったが、利用者が増えた事もあり、返済をしてなお昨年を上回る黒字となる見通しである。

サブカテゴリ-5

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

A+ A B C

・カテゴリ-3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

改善の成果

今年の新しい利用者についても、意向の把握が進み満足度が上がってきている

- * 今年の新しい利用者についても、意向の把握が進み満足度が上がってきている。
- * 新しい利用者家族とこれまでの利用者家族との意識のズレが課題となっており、理念の浸透に努力している。
- * 調布市福祉作業所等連絡会の事業の発展と事務処理の効率化を目指して人員配置をする検討が始まった。

II サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	
	評価項目1 利用者等に対してサービスの情報を提供している 評点(A)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している ○非該当
	◎あり ○なし	2. 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている ○非該当
	◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している ○非該当
	◎あり ○なし	4. 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している ○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
	サブカテゴリー1の講評	
	<p>1 法人・1事業として、会報やホームページとも法人運営から利用者の活動状況まで詳細に広報</p> <p>社会福祉法人調布を耕す会は、調布市の地に、知的障害者が通う「しごと場大好き」の授産事業を運営している。この事業所の利用者は、しごと場大好きと、カフェ大好きと、2か所で活動している。平成20年4月に障害者自立支援法に基づく、多機能型(生活介護・就労継続支援B型)サービス体系に移行して、現在29名の利用者が通所している。この1法人1事業所を、パンフレット及び、法人設立の1992年(平成4年)以来休むことなく隔月に発行の会報(耕す会)と、毎年1回の年次レポート(事業計画・事業報告)及びホームページで広報している。</p> <p>法人・家族・利用者・職員が一体となって活きいきと活動</p> <p>法人の経営方針の一つである、透明性のある健全な経営を行うことがホームページにみられる。法人の会報、年次レポート、法人の事業・運営を支援する支える会の通信、2か所の施設(しごと場大好きと、カフェ大好き)の利用者の活動状況を紹介の「大好き」なる広報紙も全てホームページに掲載して、法人の役員や審議議案などに併せ職員、利用者の状況がつぶさに見られ、法人・家族・利用者・職員が一体となって活きいきと活動している様子が伝わってくる。また、会報や年次レポートを平成4年以來、行政や関係機関、特別支援学校に配布している。</p> <p>毎日のミーティングや行事等、常に利用者サイドに立った情報提供</p> <p>毎日、利用者と職員がミーティングをしており、その際ホワイトボードを使って今日の活動の内容や手順などを分りやすく板書して、皆が理解し納得できるように丁寧に説明している。また利用者の活動は「しごと場大好き」と「カフェ大好き」の両方に関わるため、両施設の活動予定を1か月毎にカレンダー形式にして、前月に全員に配布している。また全員が行く毎年恒例のスキー宿泊合宿や夏の宿泊合宿の際に作成の「しおり」の文字行間を広くとり、ふり仮名を付けて読みやすいようにしている。その他にも数多く催す行事の際にもお知らせを配布している。</p>	

サブカテゴリー2

2 サービスの開始・終了時の対応

評価項目1

サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	○非該当
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

サブカテゴリー2の講評

2～3週間の実習を経て、利用者・家族と面談して入所を決定

「しごと場大好き」の利用者のほとんどは、隣接市にある都立の特別支援学校の卒業生であり、入所に際しては、学校から実習に関して一連の手続きを経て事前に2～3週間実習を行う。実習期間中は、利用者同士、職員との相性などに配慮しながら、陶芸、牛乳パック、ポスティング、組みひもや、私鉄の駅隣の商店街にある喫茶店「カフェ大好き」の職場等一通りのことを体験してもらうようにしている。実習の結果、入所する場合には、利用者・家族と施設長が面談して、希望等を充分聞きながら、重要事項や基本的ルール等を説明している。

重要事項説明書等の内容を丁寧に説明し同意を得ると共に支援計画についても意向・希望確認

重要事項説明時には、創作活動、ポスティングやメール交換、公園清掃等の受託作業、駅前商店街にある喫茶店「カフェ大好き」での仕事を通して就労に必要な知識や能力を養うことで適性にあった職場への就労へ繋がること、送迎希望の場合は応じられることや日常生活上の支援などを説明している。また、利用料金の本人負担1割や、毎年全体で行う夏・冬の合宿での補助対象外のサービスについては実費負担になることもよく説明して利用契約時に同意を得ている。同時に、支援計画についても説明して希望や意向を確認し記録している。

職員同士の情報を共有化しながら利用当初の利用者への細やかな支援

支援計画の基礎資料として重要となる利用者・家族の希望や要望を面談記録に記載すると同時に、フェイスシート等にも記録して利用者への情報を把握している。利用開始当初は、実習で体験しているものの、これまでの生活スタイルが大きく変化することのないように、些細な変化等をも見逃さないように、毎日の打ち合わせ等で職員同士が情報を共有化して支援にあたっている。一般の職場に就労した方は、行事に参加したり、職員が相談等に応じることもある。仕事が終わると駅前商店街の喫茶店「カフェ大好き」に立ち寄り、仲間・職員とくつろぐ方もみられる。

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目2

利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直している	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目3

利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

サブカテゴリー3の講評

多機能型(生活介護・就労継続支援B型)事業所として、利用者に最もふさわしい支援計画立案による支援

多機能型(生活介護・就労継続支援B型)の「しごと場好き」のサービスは、重要事項説明書にも明記の通り、①相談支援、②生活支援、③創作活動支援、④健康管理、⑤社会体験活動(夏・冬の宿泊合宿、各種行事等)、⑥簡易受託受注事業(野菜の仕入れ販売、下請け軽作業等を通じ地域の障害理解の促進、働くことへの意欲を喚起)、⑦地域に根ざした活動(地域向けバザーや道路清掃を通じ地域との連携)、⑧調理実習、⑨その他の支援を行っている。これらのサービスメニューを基に、利用者に最もふさわしい個別支援計画を立案して支援を行っている。

アセスメントにより利用者の想う日常生活や社会生活並びに、地域社会への移行に向けた支援計画

利用者の想いや課題等を探るため、利用者の基礎的情報やプロフィールを整理したフェースシートとアセスメントシートを用いて日常生活、社会生活、活動、地域社会の移行等の各領域ごとに、現在の状況及び支援内容、支援していく上での課題、結果(評価)をアセスメントしている。更に、本人の希望や想いを実現させるためには、好きなこと・きらいなことやどのような暮らしをしたいかもアセスメントして、「どのように支援していけばよいか」を利用者の活動や家族との会話から意向を把握して支援計画に反映させている。

決められたプロセスによって全職員が携わって作成の個別支援計画

決められたプロセスによって利用者個々の支援計画を作成している。毎年、2～3月にかけて1人の職員が4～5名の利用者を担当して、支援計画の素案を作成、この素案を取り纏めてサービス管理責任者が加筆・修正を加え、全職員で全利用者の計画案をチェックして、利用者・家族と面談の上、場合によっては修正して正式な支援計画としている。計画と支援の実際に関して毎朝30分程度協議しており、職員会議ノートに纏めている。この職員会議ノートやケース記録を基に、1週間ごとにケース会議を行い、計画と支援の関連をきめ細かに検証している。

サブカテゴリー5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

評価項目1 利用者のプライバシー保護を徹底している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者に関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし

評価項目2 サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(A)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし		
サブカテゴリ5の講評		
職員行動規範を定め利用者の基本的人権の尊重 社会福祉法人調布を耕す会の綱領として職員行動規範を定め、①利用者の基本的人権を尊重し、誠実、安心、安全な対応を心がける、②利用者の個性、意思を尊重し、あるがままを受け入れる、③利用者の自己実現を目指し、常に内なる力を引き出す視点を持って接する、の3項目を掲げている。これは法人の職員として行動規範を遵守し高い倫理観の下に良識ある行動をとり、当然のこととして利用者情報等の守秘義務も厳格に守らなければならないことを示している。更に権利擁護規程も制定している。		
個人情報提供時の同意書やプライバシーに配慮した支援 サービス利用契約において、サービスを提供するにあたって知り得た利用者・家族等の秘密については、正当な理由がある場合を除き第三者に開示することなく、介護給付金等を請求する場合に個人情報を使用する時は、利用者の同意を得ることが明記されている。日常的に使用のパソコン情報をUSBで保管する時のUSBは、職員個人の責任で引き出し等に保管している。また、プライバシーに関わる書類等はシュレッダー処理している。その他、身体的な利用者支援は、人目につかないように配慮するなど、利用者の想いを常に汲み取るようにしている。		

6 事業所業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(B)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

【A+の取り組み】 あり なし

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(A)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
◎あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ◎なし

サブカテゴリ6の講評

支援内容を総括して一冊に纏めた手引書はないが、手順等を作成して支援

支援内容を総括して一冊に纏めた手引書やマニュアルは作成していないが、職員誰もが同じ手順で利用者支援に当たれるよう、作業の手順書を作成している。これには、利用者が大好きな、牛乳パック回収(毎週2回、市内の回収場所に市民の方が集めてくれた牛乳パックを車で回収して廻り、クリーンセンターの倉庫に運ぶ仕事)の「ルート」について車両、乗車する氏名、回収場所等を記載している。また、市立図書館メール(4か所の図書館内で図書移動作業)の「作業分担表」を作成して、利用者・職員が共通理解の下で円滑に活動できるようにしている。

検討中の中長期計画で事故対応マニュアル等の作成を考えている

業務の標準化を図るため、毎日のミーティングや毎週行うケース会議、月1回の職員会等で、基本事項を話し合っている。平成22年度から24年度の3か年の中長期計画(5つの経営課題:サービスの質の向上、地域社会の貢献、財政基盤の安定化、人材育成、人事制度・法人の組織強化)を策定中であり、経営課題であるサービスの質の向上では、マニュアル作成を取り上げている。当面、しごと場大好き職場において、「事故対応マニュアル」を平成22年度に、「感染症マニュアル」を平成23年度に作成することを計画している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

評価項目1 個別の支援計画に基づいて自立(自律)生活が営めるよう支援している		評点(A)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいて支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 自立生活に必要なさまざまな情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目1の講評		
<p>生活介護・就労継続支援B型において様々な支援を行っている</p> <p>社会福祉法人調布を耕す会が運営する「しごと場大好き」は平成20年4月から新体系の多機能型(生活介護・就労支援継続B型)に移行した。現在、生活介護は10名、就労継続B型は19名と合計29名が利用している。利用者が自ら考え、選択し行動するという自立の基本概念を軸に生活介護利用者には日常生活上の支援(ADL全般)及び社会的自立のために、創作活動や作業支援等を行っている。就労継続支援B型の利用者には、生産活動援助、生活指導、職業訓練指導等を行っている。</p> <p>作業から生活まで、個別支援計画の方向性を確認し、その上で支援している</p> <p>「しごと場大好き」での作業は様々で10数種類あり、その出張所である「カフェ大好き」での作業も接客や仕込み、あるいは洗い場等に分かれている。その中で利用者の意向や特性を重視し、利用者と利用者家族に相談しながら作業の種類を流動的に決めている。また、行事の前などに風邪をひく等、体調を崩すことの多い利用者には生活支援の一環として、家族と連携して注意して様子を見るなどしている。</p> <p>利用者のコミュニケーションのとり方の工夫及び対人関係のアドバイスも行っている</p> <p>コミュニケーションは利用者の特性に応じて、個別に会話を工夫したり、文章提供の仕方を変えたり、写真カードを使ったり工夫している。しぐさ等、体で意思を表現する利用者には挙動を見逃す事のない様、常に注意を払っている。また、日々、利用者の話す言葉に耳を傾け、社会的にそぐわない言動には、利用者個々の状態に合わせ、自立支援を念頭に反発を感じさせない丁寧なアドバイスをしている。</p>		

2	評価項目2 個別の支援計画に基づいて就労・日中活動等に関するさまざまな支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 授産活動のメニュー等は、利用者の希望や特性により選択できるようにしている	○非該当
	◎あり ○なし	2. 利用者が活動しやすい環境を整えている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している	○非該当
	◎あり ○なし	4. 工賃は利用者との合意に基づいて支給している	○非該当
	◎あり ○なし	5. 利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている	○非該当
	◎あり ○なし	6. 就労可能な利用者には、就労に向けた相談や具体的な支援を行っている	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ◎なし	

評価項目2の講評

利用者の意向や特性に合わせ選択できる多様な授産メニューが用意されている
授産活動は、本体である「しごと場大好き」とその出張所「カフェ大好き」に分かれている。「しごと場大好き」は、自主製品製作(陶芸、組紐)や受託事業(牛乳パック回収、公園清掃、メール交換、ポストイング)、調理等10数種類の勤務体系があり、利用者の意向や特性に配慮し、個別にメニューを決めている。メニューは日々5つ程用意し、利用者の当日の状態でも変更する等、柔軟に対応している。「カフェ大好き」の喫茶店営業では手作りのカレー、プリン、ジェラード等を提供し、その他に福祉ショップ経営、ギャラリーの貸出しを行っている。

給料は利用者及び家族に相談し了解を得ている
基本給は年齢及び経験年数で定め、これに出勤時間を掛けたものとしている。また、その他に個々人の就労により出来高を加味して決められる特別手当がある。期末手当は月額基本給の1か月分として年2回支給している。これらの事を入所決定時に説明し、利用者や利用者家族の了解を得ている。毎月10日に支給される給料時には施設長は全利用者に給料明細の説明や季節を交えた挨拶、そして、元気づけるための言葉を分かり易く丁寧に書き、給料袋の中に入れ、利用者の働く意欲を高めている。

利用者の働く意欲向上に繋げる取り組みがある
季節毎に多彩な各種行事を行っており、皆勤賞を設けている。3か月連続で無遅刻、無欠勤を続けた場合には、皆勤賞を贈っている。皆勤賞を目指す利用者も多く、昨年は7人の利用者が受賞している。また、新規事業のアイスクリーム販売においては、市内居酒屋に卸販売することとなり好評を博し、利用者のやりがいに繋がっている。

3	評価項目3 栄養のバランスを考慮したうえでおいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している		評点(A)	
	評価	標準項目		
	◎あり ○なし	1. 利用者の希望や職員の意見を反映し、バラエティーに富んだ飽きのこない食事を提供している	○非該当	
	◎あり ○なし	2. 利用者の状態やペースに合わせて食事がとれるよう、必要な支援を行っている	○非該当	
	◎あり ○なし	3. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○非該当	
	【A+の取り組み】		○あり ◎なし	

評価項目3の講評													
<p>利用者家族の選んだ仕出し弁当を提供</p> <p>昼食時の弁当は、利用者家族に試食してもらい、値段、栄養バランス、彩り、味ともに及第点で利用者にも好まれる評価の高い仕出し弁当を選んでいる。弁当のメニューは1か月単位で事前に届けられ、1日単位での注文、当日のキャンセルも出来る。おかずの内容の好き嫌いで自宅からの弁当に切り替える利用者もいる。また、月に数回の外食や調理実習等の機会もあり、利用者が食を通じて大きな楽しみを持つ機会となっている。</p> <p>利用者の意思を尊重した食事の支援</p> <p>配膳は手の空いている利用者が職員と協力して行っている。食事時間は利用者に応じて配慮し、見守りをしたり、必要に応じて食事介助をしている。食器の後片づけは自立支援の一環として“自分の事は自分でやる”の精神で、出来る利用者は各自、洗い場に運び、おしゃべりをしたり洗い場を譲り合ったりしながら丁寧に洗い、拭きあげて弁当の配達ケースに戻すなど整理整頓をしている。</p> <p>大きく開けた窓から差し込む陽を浴びながら和気あいあいとした和やかな昼食</p> <p>2階の食堂は南に面したガラス張りで暖かく陽が射している。木製のゆったりとした食卓、椅子がバランスよく配置され、清潔感に溢れ落ち着いた食堂は、利用者にとって憩いの場ともなっている。利用者の座る席は、他の利用者との相性もあり決まっていて、おしゃべりをしながらの食事で明るく、賑やかな楽しい時間となっている。</p>													
4	<p>評価項目4 身の回りの支援に関しては、利用者の立場を考えてサービスを行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 65%;">標準項目</th> <th style="width: 20%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【A+の取り組み】 ○あり ●なし</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている	○非該当	【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 利用者の状態やペースに合わせて、日常生活上の必要な支援を行っている	○非該当											
●あり ○なし	2. 必要に応じて、身の回りのことは自分で行えるよう働きかけている	○非該当											
【A+の取り組み】 ○あり ●なし													
評価項目4の講評													
<p>ありのままを受け入れるを基本に身の回りの支援</p> <p>利用者のありのままを受け入れるを基本に、その日の健康状況、精神状態を見守りながら自分の事を自分で行えるように根気よく働きかける支援をしている。利用者は出勤直後、男性用・女性用に分かれた更衣室に入り、利用者が自主的に選んで決めたロッカーを使用し、荷物、上着をしまい自分自身で管理している。利用者家族の意向に応じて臨機応変に対応し、必要と判断すれば何時でも随時送迎を行っている。</p> <p>「しごと場大好き」は作業終了後、「カフェ大好き」は開店前に磨きあげている</p> <p>「しごと場大好き」は、作業終了後、15:15から職員・利用者全員で多目的室、廊下、階段、トイレ等全てを雑巾で丁寧に隅々まで磨き上げる。「しごと場大好き」の出張所である「カフェ大好き」は、開店に向けて9:00から気持ちよく客を迎えられるよう、窓ガラス、テーブル、床等を徹底的に磨きあげている。これらの磨く作業は利用者自身の運動を兼ね、体を鍛える取り組みにもなっている。こうした利用者・職員による拭き掃除によって、真新しく、清潔で快適な環境が保たれている。</p>													

5	評価項目5 利用者の健康を維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 健康状態に関して、利用者の相談に応じ、必要に応じて利用者や家族に説明をしている	○非該当
	◎あり ○なし	2. 必要に応じて、通院や服薬等に対する助言や支援を行っている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 服薬管理は誤りがないようチェック体制を整えている	○非該当
	◎あり ○なし	4. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ◎なし	

評価項目5の講評

日々の健康管理は利用者家族と相談しながら支援している
「しごと場大好き」では各利用者家族に検温表及び体調全般のチェック表を渡して健康管理に協力を得ている。毎朝、利用者家族が記入し、利用者は出勤時に持参し職員へ渡している。職員は利用者全員についてチェックするほか、利用者の体調変化には注意を払い、変化があれば家族に即時連絡、必要があれば送迎、通院を行っている。施設と利用者家族との情報交換はスムーズで、迅速に対応できている。

必要に応じて利用者への助言、緊急時の通院等も実施している
利用者の健康全般に関しては、常時看護師がフォローし、利用者及び利用者家族から相談があればアドバイス等もしている。体調管理の一環として、施設長は、給料袋の中に入れるコメントに体重が増えたりしないよう、体を動かす事を優しく勧めたりしている。定期健康診断は1年に1回保健所で行い、又 利用者の緊急時の対応については、近隣に嘱託医をお願いしており迅速な対応ができる体制をとっている。

服薬は間違いのないよう配慮して管理している
昼食時の服薬は、利用者の家族から預かっており、昼食時にその都度、職員が利用者へ手渡しで行っている。管理者が服薬の確認をして「服薬チェック表」に毎回記録している。夏・冬の合宿の際には「薬」を利用者家族から預かり、その時々渡し、服薬支援をしている。

6	評価項目6 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	◎あり ○なし	1. 行事やレクリエーションのプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている	○非該当
	◎あり ○なし	2. 室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている	○非該当
	◎あり ○なし	3. 日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考にして見直しをしている	○非該当
	◎あり ○なし	4. 利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようしくみを整えている	○非該当
◎あり ○なし	5. 行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている	○非該当	
【A+の取り組み】		○あり ◎なし	

評価項目6の講評																
<p>四季折々の季節行事の実施のほか、社会体験活動を行っている</p> <p>年初のもちつき大会から始まり花見会、花火鑑賞会、月見会等の四季折々の多彩な行事に加え、2泊3日の夏合宿、1泊2日の冬合宿を利用者全員参加で行っている。夏合宿は房総半島の勝浦で海水浴、スイカ割り等を楽しんでいる。冬合宿は長野の富士見高原スキー場&八峰苑鹿の湯でスキー、ソリ等をし温泉を楽しんでいる。また、社会体験活動の場として毎週月曜日「体育館運動」などのスポーツ系、「バーベキュー」などのお楽しみ系や「お買い物」などがあり、利用者の生活にメリハリをつける事が出来る取り組みになっている。</p> <p>利用者の環境を最優先に考え、建物を新設</p> <p>「しごと場大好き」を新設する際には、利用者の環境を最優先に設計した。室内は木のぬくもりがあり南向きでガラス張りになっている。1Fからの吹き抜けもガラス張りで開放感に優れ、見晴らし、日当たりも良く、清潔感があり暖かく、居心地のいい環境になっている。また、ガラス張りの吹き抜けは2Fに居ても1Fで作業中の利用者の声が聞こえ、姿も見える事から作業所の様子が分かる様になっている。</p> <p>日々の利用者の進行によるミーティングや利用者会議が主体性を育てるのに役立っている</p> <p>利用者主体を具現化する一つ的手段として、朝夕の日々の全体ミーティングを利用者の進行で行っている。この事はミーティングの場をなごませたりするが思わぬところで脱線したり、いつの間にか終わっていたりする。しかし、利用者主体であることを当事者、職員が無意識のうちに認識できる場にもなっている。職員は、利用者の利用者会議等での発言も参考にして、日常生活支援を見直している。</p>																
7	<p>評価項目7 施設と家族等との交流・連携を図っている</p> <p style="text-align: right;">評点(A)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">【A+の取り組み】</td> <td>○あり ●なし</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている	○非該当	●あり ○なし	3. 必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている	○非該当	【A+の取り組み】		○あり ●なし
評価	標準項目															
●あり ○なし	1. 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている	○非該当														
●あり ○なし	2. 利用者の日常の様子や施設の現況を家族等へ知らせる手段を整えている	○非該当														
●あり ○なし	3. 必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている	○非該当														
【A+の取り組み】		○あり ●なし														
評価項目7の講評																
<p>利用者の日常の様子や施設の現状を家族等へ知らせる取り組み</p> <p>日々の家族との連絡は、利用者が持参する連絡帳や送迎時の会話、電話、メール等で行っている。連絡帳には施設での利用者の就労の様子等を詳しく記録し知らせている。家族からは家庭での利用者の様子等が書かれ、利用者の状態の情報共有が出来ている。家族等へ定期的に情報を届ける仕組みとして、保護者会「ファミリー」での報告があり、必要に応じて施設から家族等へ情報を提供している。また、利用者家族と施設の連携として、一緒に活動するイベントが多く、共に創り上げている「場」となっているため、信頼関係は厚い。</p> <p>新しい位置づけの中での新たな関係性への模索</p> <p>調布を耕す会は、発足以来十数年間にわたって利用者のために家族、職員、運営委員会が一体となって創り上げてきた場である。利用者も含め発足当時の関係者が高齢化して来た事、新しい世代の利用者、家族が増えてきた事など様々な要因から、これまで培ってきた一体感が薄らいできており、新しい位置づけの中での新たな関係性や一体感の再構築が課題となっている。</p>																

評価項目8

地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(A)

8

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している	○非該当
◎あり ○なし	2. 必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している	○非該当
【A+の取り組み】		○あり ◎なし

評価項目8の講評

利用者が地域の一員として生活するための取り組み

地域の社会資源として機能している事業所と連携して利用者へ情報提供し、市役所売店や市の総合福祉センター、市民ホール3F内覧会展示ホール等で利用者の作品の展示と販売が出来るようになった。これらは作業所についての地域へのPRともなっている。また、「しごと場大好き」では、地域の方々への感謝の気持ちと交流を深める機会に出来ればとの思いがあり、地域の一員として生活するために年初の餅つき会、ジャングルバザー、大好き市など様々なイベントを開催している。

「しごと場大好き」の出張所「カフェ大好き」は地域住民と身近に接する場となっている

「カフェ大好き」は喫茶店、福祉ショップ、ギャラリーの機能を持ち、12名の利用者が交代で働いている。9:30分の開店に向けて9:00から雑巾で店内全て、板張りの床もピカピカに磨き上げている。9:30からはモーニング、11:30からランチタイムが始まり、利用者の「いらっしゃいませ」の明るい声は店内が活気づく原動力となる。福祉ショップ部門は調布市内の提携作業所からも作品の提供を受け店内に並べ共に販売している。ギャラリーは地域の方々に無料で貸し出し写真展やギャラリーとして利用されている。

将来を展望した事業の方向性を探っている

利用者と利用者家族の多様な要望に応えるために、グループホームを設置し、そのグループホームを拠点として、利用者のみならず利用者家族の休養のためにも、ショートステイやホームヘルパーの派遣等の居宅事業への拡大も視野に入れている。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	木のぬくもりがあり南向きでガラス張りの開放的な施設で、利用者から愛称で呼ばれる施設長を中心にアットホームな施設運営がなされている
	内容	施設は、木のぬくもりがあり、南向きのガラス張りで開放感にあふれた居心地のいい環境になっている。利用者から愛称で呼ばれる施設長を中心に職員は、言葉で表現できない利用者の意向を日ごろの本人の興味・関心や表情などによって把握するよう努力し、温かい言葉がけや励ましで支援している。このように利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、アットホームな施設の雰囲気を作り上げている。
2	タイトル	利用者の意向や特性に合わせ選択できる多様な授産メニューが用意されている
	内容	授産活動は、本体である「しごと場大好き」とその出張所「カフェ大好き」で分かれて行っている。「しごと場大好き」は、自主製品製作(陶芸、組紐)や受託事業(牛乳パック回収、公園清掃、メール交換、ポスティング)、調理等10数種類の勤務体系があり、利用者の意向や特性に配慮し、個別にメニューを決めている。メニューは日々5つ程度用意し、利用者の当日の状態を変更する等、柔軟に対応している。「カフェ大好き」の喫茶店営業では、手作りのカレー、プリン、ジェラード等の提供、福祉ショップ経営、ギャラリーの貸出しを行っている。
3	タイトル	バザーや各種行事は、市民や家族が一体となって実施するなど開かれた施設運営が行われている
	内容	「地域の中で生き生きと、豊かにゆうかいにゆうゆうと」を基本理念としてきた法人は、徹底して地域に開かれた施設として運営してきた。市民との日常的な交流を深めるための「餅つき大会」、「花火大会」、「大好き」、年数回実施されるバザー、「それはおしゃれなコンサート」など各種行事には、毎回数百名の参加を得ている。バザーでは、市民が自発的に商品を持参し提供していただくなど、市民や家族が一体となって運営されている。バザーの広報にあたっては、ほぼ全市内へのチラシのポスティングを家族やボランティアの協力で行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	かかわる全ての人が誇りを持って、健康で生きがいのある就業環境整備を
	内容	現在、年齢給をベースとした給与体系となっているが、処遇改善も含めた評価制度など、給与規程改善への取り組みが課題となっている。法人は、「かかわる全ての人が誇りを持って運営を目指す」ことを経営方針として掲げており、職員が健康で生きがいをもって働けるような環境整備(福利厚生充実や事務処理効率化などによる勤務時間の削減など)やストレスマネジメントへの取り組みも大切であると考えており、中期計画でも重点課題としている。
2	タイトル	検討中の中長期計画で事故対応マニュアル等の作成を
	内容	業務の標準化を図るため、毎日のミーティングや毎週行うケース会議、月1回の職員会等で、基本事項を話し合っている。平成22年度から24年度の3か年の中長期計画(5つの経営課題：サービスの質の向上、地域社会への貢献、財政基盤の安定化、人材育成、人事制度・法人の組織強化)を策定中であり、経営課題となっているサービスの質の向上では、マニュアル作成を取り上げている。当面、しごと場大好きの職場において、「事故対応マニュアル」を平成22年度に、「感染症マニュアル」を平成23年度に作成することを計画している。
3	タイトル	新しい位置づけの中での新たな関係の構築への模索を
	内容	調布を耕す会は、発足以来、家族、職員、運営委員会が一体となって創り上げてきたが、創業時代からの利用者(保護者)と最近の利用者では、法人への思いに温度差があり、新しい利用者への理念浸透に努めているが、一体感の再構築方法が課題となっている。また、障害者福祉制度が大きく揺れ動く中で、新法移行に向けた小規模作業所の統廃合が議論されており、今後、利用者数の増加や利用者ニーズの多様性に伴い、保護者との意思疎通がより難しくなることが懸念され、新たな課題の解消に向けた取り組みが重要になっている。